

●三位一体後第二主日

# 泉のほとり

## あなたが罪に陥らないように

「神はこれらすべてのことをば告げられた」とある通り、十戒はモーセを通じてではなく、神が直接、不特定多数の「あなた」ではなく単数形の「あなた」に向けて語りかけられたものです。

●三位一体後第二主日  
●今月の詩編「第十二編」  
人は友に向かつて偽りを言い

滑らかな唇、二心をもって話します。  
主よ、すべて滅ぼしてください  
滑らかな唇と威張って語る舌を。



になりました。なお、あらゆる偽証人を立て、遣わされた神の御子に死刑判決を下しているながら、「自分たちは神に仕えている」と思っていたのです。この罪の恐ろしさに恐れを抱くもの

十戒が語られている間、雷鳴、稲妻、角笛の音が鳴り響き、山が煙に包まれる有様が伴われていました。その恐ろしい光景は、三日間、民が神の前での自分を聖別し、シナイ山のふもとに集められ、境界線が設けられて一歩も近づくことが許されなかつた時から続いていたと思われまふ。そこにいるだけで死の恐怖に捕らわれ、激しく震え上がる民は、モーセに

民は死の恐怖に捕らわれるような神のご臨在の前で、十戒を受けました。これほどの恐れに触れ、神の御前を生きる人は、すべての戒めを恐れながら受け、自分自身を見るのではないでしょう。与えられた十戒を歪めて、守っている気になるようなことはできないでしょう。しかし、神の御前、震えるほどの恐れを知る人はそのような闇の中に生きることが幸いであることも知るので。

「神が私たちにお語りにならないようにしてください」と懇願しました。モーセは、「神が来られたのは、あなたたちの前に神を恐れる恐れをおいて、罪を犯させないようにするためである」と告げました。民に震えるほどの恐怖を抱かせたのは神であり、その理由は「罪に陥らないため」です。罪を犯すことが彼らに恐れとなる、それが人の命だからです。

主イエスは人の罪に対する神のお怒りの杯を受けられる前、恐れおののいておられました。罪に陥ることが肉体の死を超えられるものであることを、私たちは主が受けられた杯を通して見なければなりません。神ご自身が直接語られたことばを、私たちは雷鳴のとどろく中ではなく、十字架の主イエスを通して聞いています。十字架の上で罪のために死んでくださった主の御業こそが、あのイスラエル民以上の「恐れ」を私たちに授けるのです。

しかし、十戒が授与された後の歴史において、民の間では十戒が表面的なものに止まりました。主イエスが来られた時代のユダヤ人たちは、安息日に特定の行いを「しない」「やめる」ということで守っていると思いつながら、内側にある怒りや憎しみ、貪りをやめませんでした。安息日に病人を癒した主の憐れみを隣人愛と見るのではない民は、安息日に癒す行為をしたからと、主イエスを「十戒を破る人」と断罪したのです。

十戒を完全に行い得ないことは承知の事実でしょう。では、十戒は不要なのか、決してそうではありません。十戒の一点一画も捨て去られることはなく、守り行うことが神の民にふさわしいことです。しかし、現実離れをした話では何にもなりません。十戒は人の表に現れる現実のみならず、内側を照らし気づかせます。私たちは知らされる自分に真実に向き合い、かつての民のように「罪の中」、十戒を受けてはなりません。現実を欺くことなく真正面に聞くその「きよさ」を絶対に失ってはなりません。

主の御名をみだりに口にしない第三戒を守るために発音すらしないことを敬虔な姿としていた民。主は「イザヤはあなたがた偽善者について見事に預言した。この民は口先でわたしを敬うが、その心は遠く離れている」と、民の偽善を指摘されました。像を作らなければ偶像礼拝してはいないと思う心には、「二人の主人に仕えることができない。富に仕えるか、神に仕えるかである」と語られました。

その誠実な日々の積み重ねの中、聖霊なる主は、十戒を守り行い得なくするものを焼き尽くし、私たちが右にも左にもそれずに生きる者へと変えてくださいます。その信仰を授けてくださるように、何よりも神の御前、罪に陥ることを恐れる心を授けてくださるようにと願い求めています。どうか。

このように内側にある違反を照らすことも気づくこともせず、闇の中で自らを隠す方を主イエスは「罪」とお示し

## 《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

## 《2026年度

## 教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で、

キリストの体として的一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

## 《今日のお知らせ》

○ 信業者に学ぶ会を地下ホールで行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

## 《礼拝伝道委員会より》

六月七日に開催予定だった「信業者に学ぶ会」が本日に変更となったため、本日の交わりの会（御言葉の分かち合い）は中止します。

## 《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

## 《シオンの会より》

六月一七日（水）一〇時三〇分～一二時シオンの会を地下ホールで行います。（オンラインも併用します。）  
テキスト「使徒言行録を読もう」P.103～104 四世界に旅立つ教会（一三章一節～一二節）を読みます。新しく参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

〔詩篇十二篇〕 指揮者によつて。第八調。  
賛歌。ダビデの詩。

主よ、お救いください。

主の慈しみに生きる人は絶え

人の子らの中から

信仰のある人は消え去りました。

人は友に向かつて偽りを言い

滑らかな唇、二心をもつて話します。

主よ、すべて滅ぼしてください

滑らかな唇と威張つて語る舌を。

彼らは言います。

「舌によつて力を振るおう。自分の唇は自分のためだ。

わたしたちに主人などはない。」

主は言われます。

「虚げに苦しむ者と

呻いている貧しい者のために

今、わたしは立ち上がり

彼らがあえぎ望む救いを与えよう。」

主の仰せは清い。

土の炉で七たび練り清めた銀。

主よ、あなたはその仰せを守り

この代からとこしえに至るまで

わたしたちを見守ってくださいます。

〔司・会〕

主に逆らう者は勝手にふるまいます。

人の子らの中に

卑しむべきことがもてはやされるこのとき。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「主を拝み、主に仕える」

聖書 マタイ4章8〜11節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「人間を獲る漁師になる」

聖書 ルカ5章1〜11節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讚美歌 500番 275番

説教 「神に覚えられた異邦人」

聖書 使徒10章1〜8節

説教者 宮間彰広兄





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 499番 168番  
説教 「祈りは主イエスと共に」  
聖書 ルカ11章1～4節(新約P.127)  
司式 山下 純一 兄  
聖餐司式 黄 允湜 牧師  
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「いと高きにある神にのみ栄光あれ」J.パッヘルバル

### ○讃美歌499番

#### 1. 御霊よ 降りて むかしの如く

くすしき御業を 現したまえ ※

※ (くりかえし)

代々にいます みたまの神よ

今しもこの身に みちさせ給え

#### 2. 御霊よ 降りて めぐみの雨に

かわける心を 潤おしたまえ ※

#### 3. 御霊よ 降りて けがれを潔め

とうとき救いに いらしめ給え ※

#### 4. 御霊よ 降りて かよわき我を

きよけき力に とましめ給え ※

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

### ○聖歌隊による讃美

「我らはひとつ」 S.Pethel作曲

我らは 聖霊によりて ひとつ

主の愛に 囲まれて ひとつとなり 主の子供となる

我らは 互いに 仕えあい

感謝の声あげる 御名を 讃え

御神を 父と呼ぶ

与えられし 恵み 分かち合い

異なる 賜物 ひとつにして

御言葉 伝える 技により

我ら ひとつのものとされる

我らは 聖霊によりて ひとつ

主の愛に 囲まれて ひとつとなり 主の子供となる

我らは 互いに 仕えあい

感謝の声あげる

主を 讃え ひとつに 結ばれて

父なる 神 讃えん

### ○讃美歌168番

#### 1. イエス君の御名に まさる名はなし

みかみのみこころ 世にあらわせり ※

※ (くりかえし)

わが君イエスよ 喜びうたう

尊き御名こそ 比いもなけれ

#### 2. いとたかき神の み子にいませど

世をすくうゆえに イエスとは呼びぬ ※

#### 3. すくい十字架に かけし御名を

よろずのくに ため 今なおあいす ※

#### 4. 父なるみ神の 右にのぼりて

み代しらすイエスの みいつかしこし

アーメン

聖餐曲 「主イエスを愛する身こそ幸なれ」 D.ワット

後奏曲 「スケッチ第3番」 R.シューマン